

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	図画工作
-----	------

発行者	総合的な所見
開隆堂	<p>第1の観点</p> <p>①各題材の目標が、資質・能力を表す3種類のキャラクターと文章で示されている。特に重点的に育成したい資質・能力には下線を引き、色を変えて示されている。また、学習のめあて（重点として示されたもの）に対応させ、どのような資質・能力を身に付けたかを問いかけることで、ふり返りの視点を示している。</p> <p>②全ての題材で、〔共通事項〕を視点として思考させるためのコメントや学習のめあてをキャラクターの吹き出しで示し、学びを促している。また、教科書の巻頭に図画工作科での学び方やマークの意味が示され、目次のページでどのような活動があるのか見通しがもてるようになっている。</p> <p>③主に使用する用具名や材料名が、ページ左上にイラスト付きで全学年の全題材で示されている。また、全ての表現題材に「かたづけ」が記載され、片付け方を文で説明したり、題材によっては写真やイラスト付きで説明したりされている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①各題材名の上または下に、活動のきっかけとなる文が示されている（UDフォントの使用により、支援を要する児童にも読みやすい書体となっている）。また、全ての題材で二次元コードから、導入動画と作品例が視聴できるように示されている。学習の中心的な3つの目標が児童にわかりやすくなるようにキャラクターとともに示されている。そのキャラクターがアドバイスする文も記載されている。</p> <p>②活動と関連した鑑賞の特設ページ「小さな美術館」が設定されている。また、表現と鑑賞を関連付けて、学習を展開できる題材が設定されている。</p> <p>③自分たちの表現した作品を互いに鑑賞し、しっかりと対話している様子が写真で示されている。また、地域の特徴や文化を生かした作品が「みんなのギャラリー」に写真で掲載されている。</p> <p>第3の観点</p> <p>①全学年において、題材を「造形遊び」「絵」「立体」「工作」「鑑賞」の5項目に分類して配列している。作品をつくった後に、関連す</p>

	<p>る鑑賞題材が配置されている。また、就学前からの接続や中学校との接続、キャリア教育への対応が示されている。</p> <p>第4の観点</p> <p>①作品や造形活動について、発想・構想に関する発言やヒントが吹き出し等で示されたり、作者の考え・感想が示されたりしている。QRコードから、作品のつくり方や道具の使い方等、学習内容を様々な映像や写真等で確認できるようになっている。また、発想や構想を広げたり学習を振り返ったりするためのワークシートも用意されている。</p> <p>第5の観点</p> <p>①コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定されている。適宜話し合いの観点も提示されており、言語活動が充実するための工夫が見られる。また、各題材の左下に、「タブレットたんまつで見てみよう」というコーナーがあり、鑑賞カードや振り返りシートの型が利用できたり、作品を見たりすることができる。それをを用いることで言語活動が充実するように工夫されている。</p>
日 文	<p>第1の観点</p> <p>①資質・能力の3観点を5項目に細分化し、育てたい力をより明確に示している。思考力・判断力・表現力等においては、発想や構想等、表現のめあてと、鑑賞のめあてが示され、表現と鑑賞を往還しながら活動できるようになっている。また、活動を終えて、どのような気付きや学びがあったのか、学習を振り返るための投げかけが記載されている。生活と結び付けて考えさせるもの、自身の感情を想起させるものもあり、学びに向かう力、人間性等の涵養へとつなげられている。</p> <p>②ほぼ全ての題材で、「とくに大切なめあてのヒント」や「鑑賞のヒント」に〔共通事項〕を視点として思考させるためのコメントが示され、学びが促されている。また、教科書の巻頭に図画工作科の学び方が示され、マークによってどのような活動をするのかが示されている。</p> <p>③全学年の全題材で、ページ番号横に主な材料名や用具名がイラストで示されている。また、表現と一部の鑑賞題材に、「気をつけよう」や「かたづけ」の記載があり、用具の安全な使い方や片付け方が文で示されたり、題材によってはイラストや写真付きで説明されたりしている。</p> <p>第2の観点</p> <p>①各題材名の下に、活動のきっかけとなる文が示されている（ゴシック</p>

体が使用されている)。また、全ての題材で二次元コードから、用具の使い方、作品例、仕組み等が視聴できるようになっている。そして、活動中のつぶやきや豊富な作品例によって発想や構想、工夫を読み取りやすくし、児童の興味・関心を高めようとしている。

②鑑賞の特設ページ「教科書美術館」や「広がる図工」が、関連深い題材と連動させて活用することができるように設定されている。また、表現と鑑賞を関連付けて学習を展開できる題材が設定されている。

③身近な自然物や人工物等様々なものが写真で示されており、興味や視野が広がるようになっている。自分で実際に手で触れながら鑑賞している写真が面白さを強調している。

第3の観点

①全学年において、題材を「造形遊びをする活動」「絵に表す活動」「立体に表す活動」「工作に表す活動」「鑑賞する活動」の5項目に分類して配列している。鑑賞については、鑑賞のみの題材もあるが、基本的には全ての題材で鑑賞の活動が示されている。また、第1学年のスタートカリキュラム（幼児期の遊びとの接続）を意識した題材や中学校への接続を意識した題材が設定されている。

第4の観点

①作品や造形活動について、発想・構想に関する発言やヒントを吹き出し等で示したり、作者の考え・感想を示したりしている。また、題材ごとのQRコンテンツは、導入と展開、振り返りのそれぞれの場面で使うことができるようになっている。

第5の観点

①コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定されている。また、適宜話し合いの観点も提示されており、言語活動が充実するような構成となっている。各上巻に掲載された特設ページに、作品を見て感じたことや考えたことを友達と話し合う活動を示すことで、言語活動の充実が促されている。